

令和元年度第 2 回福島県原子力発電所の廃炉に関する安全確保県民会議
 (令和元年 5 月 1 4 日開催) における追加質問への回答

質 問	回 答
<p>1 資料-1 の P.37 2 号機燃料デブリ冷却状況確認について、口頭で概要の説明がありました。それに関連して各号機の温度計の状況について説明してほしい。</p> <p>TV のニュースでは、2 号機を選んだのは温度計精度の信頼性が最も高いからということでした。温度計の仕組みと各号機の現状について、及び信頼性の低い号機で試験するための対応策、今後の計画について説明してほしい。</p>	<p>【東京電力ホールディングス株式会社】</p> <p><温度計の仕組み> 原子炉圧力容器や原子炉格納容器の温度を測定している温度計は主に熱電対タイプのものを使用している。 熱電対タイプは、二種類の異なる金属導体で構成された温度センサであり、応答が早い、特性が安定している、測定範囲が広範囲などの特徴があります。</p> <p><各号機の現状> 事故前から設置してある既設の温度計は、事故により性能の低下がみられるが、定期的な評価により、監視に問題ないことを確認している。 また、1～3 号機の原子炉格納容器には事故後に温度計を設置しており、2 号機については原子炉圧力容器底部にも温度計を設置していることから、温度測定の信頼性が高い 2 号機を原子炉注水停止試験の初号機として選定した。</p> <p><今後の計画等> 1・3 号機については、2 号機と比較して、原子炉圧力容器内の燃料デブリが少ないため、原子炉圧力容器内の発熱（崩壊熱）は小さい状況。また、原子炉格納容器の水位が高いため、注水停止時の温度上昇率は小さくなると考えられる。そのため、1・3 号機では 2 号機よりも長く注水を停止する必要がある。試験にあたっては、温度計やパラメータ等を監視しながら、慎重に実施していく。今後、具体的な注水停止時間や試験手順等を検討していく。</p>

2 外国人労働者の就労実態について詳細に説明して欲しい。

(前回会議議事録より抜粋)

東京電力

我々も、外国人労働者の方々は既に今時点でもたしか30名ぐらい、いろいろ土木工事現場とか建築工事現場で働いていただいていると思いますけれども、当然ながらその企業さんの中で安全確認、問題ないということを確認したり、放射線作業従事者という資格というか、そういう要件を満たさなければいけないんですけれども、そういう中で例えば信頼性確認とか、そういうことはきちり確認をすることになります。

30人いる外国人労働者は、「①土木または建築作業」を目的とする労働者でしょうか。

「②原子力の専門家」もいるのでしょうか。

仮に①と②の労働者がいる場合に、放射線下の作業について違いはありますか。

また現在働いている外国人労働者については、影響のない線量下での建築作業に従事しており、法的・健康上も問題は無いという理解で良いでしょうか。

【東京電力ホールディングス株式会社】

外国人労働者につきましては、現在、約30名の方々が、土木・建築・放射線測定などの作業に従事いただいております。

また、作業員の被ばく管理および健康管理につきましては、日本人・外国人分け隔てなく、関係諸法令を順守するとともに、監督官庁の指導に基づき、適切に実施しております。